歌誌　黄雞「秋号」投稿歌

山形　黒沼　貞志

歌題　アンソロジー　２０１０～２０１５　その２

雲が湧き山も滴り街中は涼風とおり花の香満ちる

食卓の自前のトマト晴れ晴れと今年の出来映え旨さ増しおり

この暑さ気付いてみれば過ぎし処暑暦と自然身体折り合う

親子孫揃い楽しむ夏の高原鐘を響かせ祈るひと時

玄関に花野で見つけし尾花活け祭の写真を添えて秋づくり

紅葉狩り思わぬ寒さに悴む手堪えし家族に微笑むお釜

布団干し客を迎える山の小屋歩みし秋の空を風行く

名刹の銀杏の落葉黄の絨毯テレビ告げおり「蔵王は初雪」

残雪が路肩で黒ずむ雨水の日テレビは北の被災地告げおり

満開の桜と競うひこばえの一途さ健気さ愛しさと見ゆ

黙々と地面を均す人ありきゲートボールの戦いまじか

朝まだき日課となりて窓開くる明けの空にはストロベリームーン

木道の延びる先には草もみじ夕映えの中秋老けゆかん

山里の祭りの旗と見紛えりわが家の狭庭の群れジギタリス

二人して身体の不調を語らうに秋の夜長は手に余りたり